

腫瘍マーカーについて

がん細胞の表面には、正常の細胞では見当たらない物質があり、はがれて血液の中に流れ込みます。血液を調べてその物質があるかないか、増えているかないかで、がんにかかっているかどうかの目安になります。

このようながんであるかどうかを見る目印となる物質やその検査数値のことを「腫瘍マーカー」と言います。腫瘍マーカーは、良性／悪性や組織型の推定、治療効果や再発のモニタリングのために用いられます。

《婦人科で調べることの多い腫瘍マーカー》



《CA125》

- ・主に卵巣がんの腫瘍マーカーとして利用されています。卵巣がんは早期診断の困難な腫瘍ですが、この抗体はその60～80%に陽性を示します。また卵巣がんだけでなく婦人科疾患の子宮内膜がんや子宮頸がんでも20～30%の陽性率を示します。しかし、癌特異性は高くないため、良性卵巣腫瘍や子宮内膜症でも高い陽性率を示してしまいます。
- ・採血時期の注意点：妊娠早期・月経期・閉経期に高い数値を示しやすい傾向があるので、これらの時期は避けて採血してください。

《CA15-3》

- ・乳がんの診断に有用な腫瘍マーカーです。乳がん以外では、卵巣がんや肺がん、子宮内膜症、肝硬変などで陽性率が高くなります。乳がんでの陽性率は疾患の進行とともに高くなるため、早期では低く、早期診断の有用性は低いです。しかし、乳がんの治療後に再発や転移を起こした際、数値が高くなるので術後再発の発見に有効です。

《CA72-4》

- ・卵巣がんの診断に有用な腫瘍マーカーです。卵巣がんでの陽性率は50～80%で、早期例でも60%程度の陽性率が報告されています。卵巣がん以外では乳がんや消化器系のがんで陽性率が高くなります。しかし、多くの良性疾患の偽陽性率は低いことが報告されており、がんの特異性が高い腫瘍マーカーです。

《CA19-9》

- ・膵臓がん、胆道がんの有用なマーカー（陽性率80%以上）です。婦人科系では子宮頸部腺がん、卵巣粘液性腺がんなどの粘液を産生する悪性疾患で陽性率が高くなります。その他、慢性膵炎や良性肝疾患でもある程度の陽性率を認めます。がんの補助診断や治療後経過観察の評価に用いられます。

《SCC》

- 子宮頸がん、食道がん、肺がん、皮膚がんなどで有用なマーカーです。早期がん症例でも比較的高い陽性率を示し、有効な治療により速やかに低下するため経過観察に有用です。
- SCC 抗原は正常な扁平上皮にも存在しているため、アトピー性皮膚炎や天疱瘡、乾癬などの皮膚疾患や肺結核などの良性疾患でも上昇することが知られています。

《CEA》

- 大腸がんをはじめとする多くの消化器がんの診断に用いられます。消化器がん以外では肺、甲状腺、乳腺などの粘液を産生するがんで陽性を示します。がんの補助診断と治療後経過観察の評価に有用です。喫煙者や良性疾患でも陽性を示すことがあります。

腫瘍マーカーは腫瘍の早期診断には向きませんが、手術や化学療法の有効性や腫瘍の再発有無をみるなど、腫瘍の経過観察における有用性が大きいです。しかし、その値は個人差があるため、高い低いだけでは判断できません。数値の解釈はきちんと医師の説明を受けて判断することが大切です。また腫瘍マーカーだけに頼らず、定期的な検査を受けることが重要です。

《参考文献》

- 臨床検査法提要（改訂第34版）金原出版株式会社
- 病気が見える vol.9 婦人科・乳腺外科 メテックメディア

《参考サイト》

- 国立国語研究所 『病院の言葉』を分かりやすくする提案

<http://pj.ninjal.ac.jp/byoin/teian/ruikeibetu/teiangou/teiangou-ruikei-b/syuyomarker.html>

- 株式会社ビー・エム・エル：<http://www.bml.co.jp/>

